

---

# 都会に住む天使

natsu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

都会に住む天使

### 【Nコード】

N1117C

### 【作者名】

natsu

### 【あらすじ】

上京したてのサラリーマンが、大きなビルの中に天使を見つける。

不意に空を見上げると、そこには真っ白な天使がいた。

青空からは太陽を、夜空からは星達を奪い取り、  
その存在を示す摩天楼。

毎日なんの変化もないつまらない、そんな”空”を、  
僕が今日は見上げたのは、”空”から黒い羽が落ちてきたからだ。

『こんな真っ黒な羽、あんな綺麗な天使の羽なわけないよな。』

今僕の手の中にある羽は、真っ黒ではあるが、単に黒だけでない複雑な色をしていた。  
小学生のときに使っていた絵の具を全部混ぜてしまったような、そんな色だ。

それになんだか、感触もすごぶる悪い。  
羽毛が全部カラカラに乾ききっているし、それぞれが僕に敵意があるかのようにとげとげしく、一見不規則のようだが見事に規則的に並んでいる。

そんな奇妙な羽から目をそらし、再び”空”に浮かぶ天使に目をやると、

なんと彼女は自分の羽をむしりとっていた。

手は血に染まり、苦痛を押し殺したような笑みを浮かべながら、それでも羽をむしり続けていた。

雪のように柔らかく、蝶のように美しく踊る羽たちは、幸福をかたどっているように見えた。

『あれは幸福の羽なのか。天使は僕達に幸せをくれているのか?』

僕の勝手な推測だが、そう思えて仕方なかった。

素晴らしい羽たちはビルの30階あたりにさしかかると、急に黒味を帯び、灰のように地上を目指して降ってきた。

僕の手には今、2枚黒い羽がある。

段々、天使のいるところの真下あたり　僕の足元が、黒い絨毯を敷き詰められたようになっていく。  
僕はその様子を、何かを考えるわけでもなく、ただ呆然と眺めていた。

そして最後の羽が地上に触れたとき、天使は飛ぶ力を失った。

『あっ！』

僕は思わず叫んでしまった。

冷たいアスファルトに打ちつけられた天使は、それでも笑顔を絶やすことはなく、必死に黒い羽を拾い続ける。

しかし忙しく歩く人々は、それを視界にいれることすら許さなかつ

た。

今では僕も、その中の1人だ。

『金だったら捨てやるのに。』



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1117c/>

---

都会に住む天使

2011年1月5日07時57分発行